



# 金透小



令和6年 9月 5日(木) 学校だよりNo.23 発行責任者 校長 嶋 忠夫

## 自分たちの学校を 自分たちの手で!

9月3日の夕方、校舎内を歩いていると、階段の踊り場に鉢植えの花が飾られていました。以前に、飼育栽培委員会の子どもたちが、「階段の踊り場に花を飾ってもいいですか」と校長室に聞きにきて、「自分たちの学校ですから、よいと思ったことは、どんどんやっていますよ」と答えたのを思い出しました。



児童会活動は、学校全体の生活を共に楽しくするために学校の全児童をもって組織する異年齢集団の児童会による自発的、自治的な活動です。そして、児童会活動の一つである委員会活動は、主として高学年の全児童が、いくつかの委員会に分かれて、学校全体の生活を共に楽しく豊かにするための活動を分担して行うものです。本校の委員会は、「運営委員会」「飼育栽培委員会」「情報委員会」「図書委員会」「整美委員会」「保健給食委員会」「運動委員会」の7つの委員会で組織されています。それぞれの委員会では、子どもたちの発意・発想を生かし、創意工夫するなど、自主的・実践的に取り組むことを大切にしています。また、一人一人の子どもたちが、自己の責任や役割を果たし、自己有用感や達成感を味わうことも大事にしています。

踊り場に飾られたすてきな鉢植えを見て、自分たちの学校を、自分たちの手で、みんなが楽しく、充実した生活を送ることができるようになったら、もっと金透小学校はすてきな学校になるなと感じました。

## ちょっといい話

先日、福島リビング新聞社が発行している「リビング小学生新聞『てとて』」に本校の6年担任の小島望先生が自慢の先生として紹介されました。卒業生の保護者から、いつも子どもを一番に、子どもの可能性を一人一人見極めて適切に指導してくださり、みんなに愛されている小島先生を紹介してほしいと推薦があったそうです。6年生の授業や生活の様子を見てみると、小島先生は子ども一人一人をよく見て、その子の将来を見据えて愛情深く関わっていることが感じられます。

小島先生のみならず、本校の教職員は、子ども一人一人をよく見、その内面を見取りながら、その子一人一人に寄り添った指導を心がけています。本校の教職員全員が、私の自慢です。

「遊びの中に学びがある」  
人としてよりよく生きてほしい

「いつも子どもを一番に、子どもの可能性を一人一人見極めて適切に指導してくださり、担任していた2年間で子どもたち全員成長できました。卒業しても、先生に会いに子どもたちが集まります。こんなに愛されている先生をぜひ紹介してほしいです」と卒業生の保護者の方から推薦のあった小島望先生、幼い頃から教師を目指し、福島大学在学中から、東日本大震災の仮設住宅でのボランティア活動や子どもたちへの学習支援・交流をしていたそう。大切にしている言葉は、「遊びの中に学びがある」。遊びを通して社会性や道徳的価値が育まれると信じています。

子どもたちとは日々、一人一人の人間として関わるように心掛けているそう。「子どもたちに望むことは、「人としてよりよく生きてほしい」という類(おも)い。自分も学校も社会も、今よりも豊かになっていくこと。どの子どもも楽しく学べる支援や教職を目指す若者の力になれるよう、これからも勉強していきたい。」

郡山市立金透小学校  
小島 望 先生